

# News Letter

Dec.・3  
2018  
〔Vol.08〕

## 子ども・若者支援専門職養成研究所活動報告

本研究所は、子ども・若者支援専門職に関する総合的な調査および研究を進め、「子ども・若者支援士」(仮称)の専門職化を目指すことを目的としています。

発行元

子ども・若者支援  
専門職養成研究所

## ドイツ調査報告

報告：帆足哲哉(玉川大学)

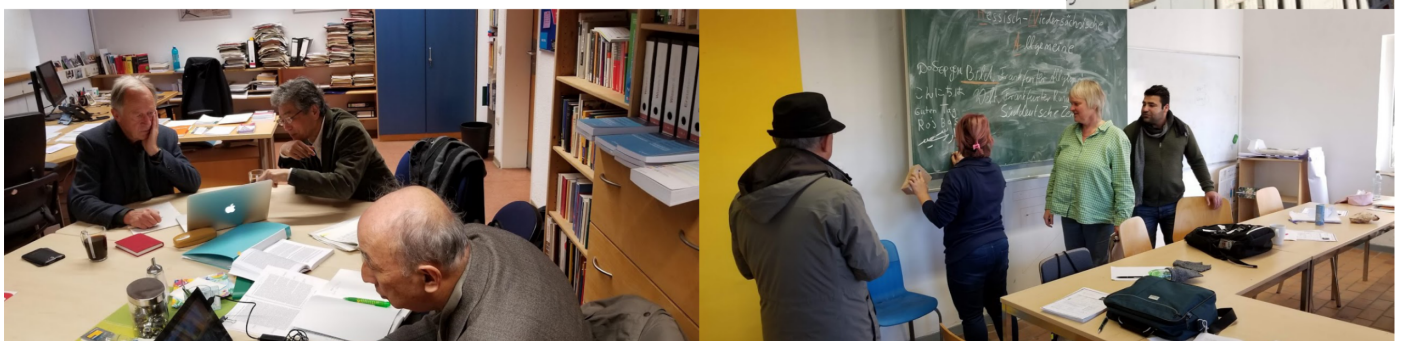
子ども・若者支援の在り方について、10月29日(月)～11月4日(日)まで、大串、生田を含めた三名が、ドイツヘッセン州カッセル市内での調査およびカッセル大学社会科学研究所のベルナー・トーレ教授との意見交換をおこなった。今回の調査では、就労支援・アウトロー(Outlaw Kassel GmbH)とシュラットホフ文化センター(Schlachthof kulturzentrum e. V)を訪問し、代表者へのインタビューと支援の実情についての視察をおこなった。

Outlawでは代表のGabriele Koslowski氏らに話を伺った。Outlawでは活動に参加する者の実態を考慮した助成をおこない、生活世界への参加を信念として掲げ、職業実習資格の付与や基幹学校修了資格の補完、「外国語としてのドイツ語」の促進を難民・移民の若年者および不利益を抱えたドイツ人青年に提供している。難民のドイツ社会への統合として、木工や金属加工、電気工事等の技術とドイツ語(ドイツ文化を含む)の提供が活気に満ちておこなわれていた。参加者と委託先団体(手工業界など)と支援団体(省、労働局、青少年局、カッセル市、ヘッセン州など)を結び、参加者の職業的コンピテンシーを高める。関連する諸団体の会議にも参加し、専門性の客観化を図っているということであった。

Schlachthofでは、代表のChristine Knüppel氏より説明を受けた。Schlachthofは1970年より若者を対象として、活動、教育、支援、カウンセリングを実施している。近年では、文化背景の異なる若者の課題に対して、ドイツ語コース(学習、職業教育修了段階、親・家族)、支援(異文化間ケース・マネージメント、ジョブ・フォーラム、継続的な情報の提供、借金に関わるアドバイス)、カウンセリング(個人、多言語、ボランティアとしての関わり)をおこなう。課題は1つに特定されない。そのため難民や移民の社会統合を阻害する課題を取り除いていく必要があるという。若者の抱える社会生活の問題は家族の職業支援に関わる課題でもあり、若い夫婦にとってみれば、子どもの教育に関わる課題を内包する。ユースワークを主としておこなう社会教育士を含む多様な職員が支えているとのことであった。

トーレ教授との打ち合わせの中では、教育者の「専門性の枠組み」(Thole/ Polutta 2011: 110)をもとに「何を」専門的行為と見るかを議論した。それは「公的資格」「指標の値」「コンピテンシー診断」「実践事例に基づく自己理解」「省察的振り返り」「エビデンス」「効率的な志向性」に分けて捉えられる。ただし特定の団体やその活動が、1つの区分の中に限定されず、特定の団体のある活動の中に示される結果の中に上記の専門的行為が見出されうるといふ。

またドイツと日本の「教育」の捉え方のちがいも話題に上がった。トーレ教授は、ドイツではErziehungとBildungをプロセスと結果で捉えるとのことであった。この点は打ち合わせの初期の段階で判明し、その後の調査の際に、対象のみ「教育」の位置づけを知るための参考となった。今後は、日本でのユースワーク実践との比較検討を図ることが必要と考える。日本でのユースを対象とする社会教育的支援の在り方についての取り組みをまとめていくこととしたい。



# 科研プロジェクトの計画(2018年度~2021年度)

生田周二(奈良教育大学)

2回目の科学研究費補助金(基盤研究B)のテーマは、  
 “子ども・若者支援における専門性の構築—「社会教育的支援」の比較研究を踏まえて—”です。  
 期間は2018年度から2021年度の4年間です。

## 1. 研究の目的

研究目的は、子ども・若者支援(子ども・若者の家庭・学校から社会への移行ならびに自立支援)の包括的な枠組みを「第三の領域」と指し、その領域の支援者の専門的能力の養成・研修システムの構築です。

「社会教育的支援(Social Pedagogical Support)」概念を作業仮説としています。この概念は、支援者の支援理解の観点である、(1)支援の構造把握、(2)子ども・若者の自立理解、(3)自立支援の方法論、(4)事例を踏まえた省察的理解、と関連しています。その観点から、子ども・若者の自立の諸側面を踏まえ、課題の焦点化(ミクロ)、ならびに連携の見通し(メゾ)、さらに地域的な包括的視点(マクロ)という各レベルでの支援の諸相を把握する専門的能力の枠組みを検討します。その養成・研修のためには、上記の支援理解の4つの観点、ならびに専門的能力の4要素(ナレッジ、スキル、マインド、センス)等を踏まえたカリキュラム・教材開発が求められます。

以上の検討を通じ、本研究は、包括的な自立支援と専門性養成・研修の枠組みに関する総合的な提案を目指します。

## 2. 研究の進め方及び研究実施計画

下記のⅠ、Ⅱ、Ⅲの3分野・4領域から取り組みます(表参照)。

- Ⅰ. 歴史的・教育福祉の理論研究分野：(Ⅰ-1)社会教育的支援研究
- Ⅱ. 支援論・方法論研究分野：(Ⅱ-1)支援の専門性の臨床分析
- Ⅲ. 養成・研修システム、教材開発研究分野(支援の方法論分析を含む)：
  - (Ⅲ-1)子ども領域、(Ⅲ-2)若者領域



分野 年度	I. 歴史的・教育福祉的理論研究	II. 支援論・方法論研究	III. 養成・研修システム、教材開発研究 —支援の方法論分析含む—		〔サポート組織〕 子ども・若者支援 専門職員養成研究所
	Social Pedagogy、 社会教育的支援研究	1. 専門性の臨床分析	1. 子ども領域	2. 若者領域	
2018	・ドイツなど関連大学・機関等訪問調査(6月・11月) ・関連資料収集、分析及び課題の整理 ・“第三の領域”、子ども・若者支援研究の整理	・居場所づくり、文化活動、学習支援、就労支援、福祉支援などの実践分析と課題整理 ・支援者養成・研修講座の検討・実施 ・居場所づくり支援等の実施	・養成・研修プログラムに関する関係団体へのヒアリング調査 ・専門性枠組み検討 ・研修ハンドブック、教材の検討	・研修教材の作成準備 ・研修プログラム策定と試行 ・養成プログラムの検討	・学会等での発表(6月) ・シンポジウムの開催(2月)
2019	・国内外の関連大学・機関等の追加調査ならびにシンポジウム打ち合わせ(7~11月) ・“第三の領域”、子ども・若者支援の試案作成	・実践分析と課題整理 ・支援の方法論、枠組みの整理(1) ・養成・研修講座、居場所づくりなどの展開を踏まえた分析 ・専門性の枠組み整理(1)	・モデルプログラムの検討 ・研修ハンドブック・教材の作成と試行 ・養成プログラムの試案(1)の作成と試行	・研修教材の作成 ・研修ハンドブックをはじめとする教材の再検討 ・養成プログラムの試案(1)の作成と試行	・学会等での発表(6月/9月) ・国際シンポジウム開催(2月)
	「社会教育的支援」の整理(第一次) ○子ども・若者支援における「社会教育的支援」、専門能力をめぐる国際シンポジウム(2月)				
2020	・“第三の領域”及び子ども・若者支援研究の枠組み試案	・支援の方法論、枠組みの整理(2) ・専門性の枠組み整理(2) 「社会教育的支援」の整理(第二次)	・養成・研修プログラムの修正・試行 ・「子ども・若者支援士」養成・研修プログラム試案(2)作成	・養成・研修プログラムの修正・試行	・学会等での発表(6月/9月) ・シンポジウムの開催(1月or2月)
2021	○“第三の領域”における「社会教育的支援」を展開する「子ども・若者支援」プログラム提起 ○試行・検討の実施とまとめの作成：「子ども・若者研究」の構想提起				
担当	大串隆吉 (首都大学東京(名))	生田周二 (奈良教育大)	川野麻衣子 (奈良教育大)	水野篤夫 (京都市YS協会)	生田周二 (奈良教育大)
分担・協力者	・上野景三(佐賀大) ・石井山竜平(東北大) ・帆足哲哉(玉川大) ・藤田美佳(奈良教育大) ・[大山宏(東京大学大学院)]	・大村恵(愛知教育大) ・津富宏(静岡県立大) ・[櫻井恵子(奈良教育大)] ・[櫻井裕子(奈良教育大)]	・井上大樹(札幌学院大) ・増山均(早稲田大(名)) ・宮崎隆志(北海道大) ・立柳聡(福島県立医科大) ・深作拓郎(弘前大) ・中田周作(中国学園大) ・小木美代子(日本福祉大(名)) ・協力団体(北摂こども文化協会、こどもNPOセンター、など)	・南出吉祥(岐阜大) ・協力団体(京都市ユースサービス協会、こうべユースネット、さっぽろ青少年女性活動協会、よこはまユース、名古屋市青少年交流プラザユーススクエア)	研究員(櫻井恵子・櫻井裕子) 研究補助、ニュースレター・HP管理、資料収集・発行等

## ユースワーカーのためのハンドブック作成に向けて

七澤 淳子(公益財団法人よこはまユース)

ユースワークが社会的に認知され、若者支援の定義や目標観が広く共有されるためには、その役割や価値を明らかにするとともに、ユースワーカーが生き生きと活躍できる環境づくりが必要です。しかし、ワーカーの養成は「個々の経験則」で成り立ってきたことが多く、その養成方法を確立するのは難しいとされてきました。これは、学問的基盤の脆弱さや職能団体の不在等により適切な養成・研修プログラムが確立されていないこと、多くのユースワークの現場が、潤沢とは言えない人員や予算で運営されることで「スタッフ養成に時間を割かず、現場のノウハウが蓄積されていかない」ということも原因の一つと言えるでしょう。

私たちは、事例の振り返りや共有がユースワーカーにとって効果的な研修機会であり、ユースワークの価値や専門性は、日常の関わりの中に埋め込まれていると考え、事例とワークの解説を掲載したワークブックが、スタッフ養成の一助となるのではないかと考えました。

このワークブックは2部構成としており、ユースワーカーが直面するであろうさまざまな事例とユースワーカーの対応(関わり)、そして「ワークの価値や専門性」を解説した『ワーカー編』と、「ワーカーを育成する視点」「チームとしてのユースワークをマネジメントする視点」を書いた『マネージャー編』に分かれています。振り返りの時間が取れない・ゆっくり記録できる時間がない・事例が少ない・相談相手がいない・フィードバックの機会がないなどの課題を補完するとともに、ユースワークの専門性を浮かび上がらせる材料になるのではないかと期待しています。

年度内中の発行を目指していますが、このワークブックは永遠に“作成途中”です。全国で頑張っているユースワーカーの皆さんと一緒に、絶えず内容を充実させていきたいと考えています。

## 「いばしょ-ねいらく-」でのこどもの居場所づくり活動

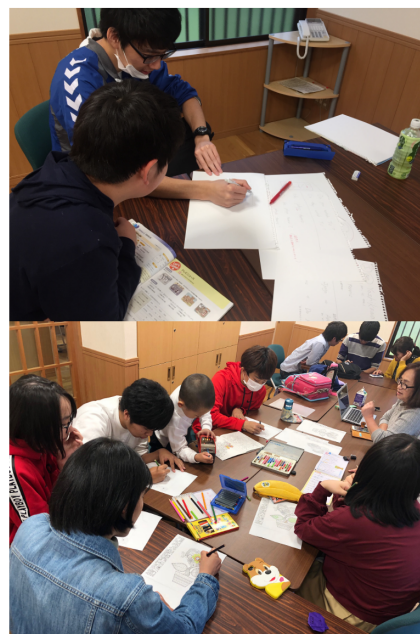
櫻井 裕子(子ども・若者支援専門職養成研究所 研究員)

子ども・若者支援専門職養成研究所では、2017年12月より学長裁量経費を利用して、大学構内の寧楽館において、不登校の小中学生を対象とした居場所&学習支援を行ってきました。

居場所では、子どもたちのやろうとしている事や活動、彼らの思いに、共感して認める、ということを重要視して活動しています。なぜなら、このような活動は対象となる子どもたちの人間関係における関係性をつむぎ直し、自尊感情を高めることに寄与すると考えているからです。基本的な安心感や信頼感をともなった他者との関係性や自身への確かな自信は、子ども達の自己実現や社会との関りをポジティブに模索することにつながると考えています。来所した当初は、不安や緊張から動きの堅かった子どもたちが、時間を経るにつれてのびのびと動き出し、最近では、学校にまつわる自身の体調不良をどの様にコントロールしていこうと思っているか、友達との付き合い方やお互いの立場、距離感などについて話してくれたり、自分の生活の中における居場所の位置づけやその意味について語ってくれたりする場面も多く見られるようになりました。この様なことから、自分の思いを表現し、それに共感され認められるという相互行為が、子どもの自立において重要な役割を担っているということが改めて感じられました。

合わせて、居場所では保護者への相談活動も行っています。生きづらさを感じている子どもの家庭では、保護者も同様にしんどさを感じていることが少なくありません。また、小中学生の子ども達においては、保護者の精神状態のあり様が、彼らの心身の状態に影響を及ぼすことも多く見られます。そのため、子どもへの支援と並行して保護者支援を行い、家庭生活の安定をはかることは、必要不可欠な支援であると言えるのではないのでしょうか。

最後に、『いばしょ-ねいらく-』には、奈良教育大学の大学生がボランティアスタッフとして参加しています。不登校や発達に偏りのある子ども達との関わりには不安や疑問、悩みを感じることもあるようですが、お互いに思いを共有し合ったり情報交換をしながら関わってくれています。また、保護者が持つ不安や悩みの一端に触れることは、今後教員として働く学生たちの教育臨床現場での臨床力を高め、より効果的な子ども支援につながることを期待できます。このことから、居場所支援における大学生の参加は、子ども・若者支援の将来にも寄与する取り組みであるとも言えるのではないのでしょうか。



# お知らせ

## ● 子ども・若者支援のための事例検討会(全3回)

生きづらさを抱える子ども・若者への効果的な支援について、支援者のナレッジ(知識)、スキル(技術)、マインド(価値)に焦点を当てたセミナーです。事例検討を行うことにより、支援の視点、各団体・機関の持ち味・強味と課題、連携の在り方を考え合い、支援の取り組みの言語化と支援者の専門性の向上を図ることを目指します。また、ペアレントトレーニングの考え方を学ぶことによって、具体的対応方法を学び、実践することを目指します。



日程：①2018年12月23日(日) ②2019年1月27日(日)  
③2019年2月3日(日)

場所：奈良教育大学(奈良市高畑町)  
次世代養成センター1号館 大会議室兼教室

時間：9:30~15:30

対象：★子ども・若者の支援関係団体、機関の職員・スタッフ  
★当事者の家族 ★学校の教員



## ● シンポジウム2019(子ども・若者支援専門職研究所)のお知らせ

2019年2月24日(日) - 予定 - .....奈良教育大学(奈良市高畑町(番地なし))

内容：午前一基調講演を予定

午後一各論(若者領域、子ども領域、ドイツ調査の報告など)で討論会を予定

懇親会：前日夜か当日夕方かで検討中

※詳細が決定次第、みなさまにお知らせさせていただきます。予定です。

## ● 子ども・若者支援専門職養成研究所のHP・Facebook

当研究所の取り組みや、シンポジウムの案内、報告、2017『不登校・ひきこもりのためのハンドブック』(データDL可)等を載せています。又、Facebookでは、いろいろなイベントのお知らせをしています。

U R L <https://ipty2014.wixsite.com/mysite>

Facebook <https://www.facebook.com/ipty2014/>

## ● 会員募集のお知らせ

■本研究所の趣旨に賛同し、共に活動して下さる方を募集しております。

・入会金なし ・年会費3000円(※院生・学生の場合 1000円)(毎年4/1更新)

■入会を希望される方には、入会申込書(別紙)にご記入の上、お手続き下さいますようお願いいたします。

## 事業活動

- 連携強化 会員相互のネットワークの構築、関係諸団体、研究機関、行政関係部局、政党関係者との連携
- 調査研究 子ども・若者支援専門職に関する国内外の総合的な調査と研究、情報、資料収集と提供
- 成果発表 研究会、講演会、シンポジウム、ワークショップ等の開催
- 紙誌発行 研究紙誌の発行
- その他 その他、目的達成に必要な事業

